

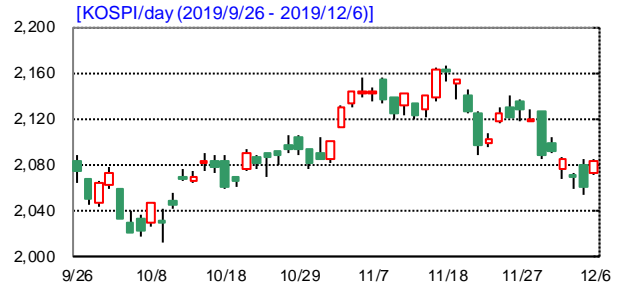


【韓国】 総合指数は週間で0.3%安と3週続落、今週は米中協議の動向が焦点

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で0.3%安と3週続落。米中貿易協議の先行き不透明感に加え、景気減速やウォン安による資金流出懸念などが相場の重荷となった。米中協議を巡っては週半ばにトランプ米大統領が合意の先送りを示唆したと伝わり、警戒感が高まった。ウォンの対米ドルレートが10月中旬以来の安値圏まで下落したことも重しで、総合指数は5日に終値ベースで10月18日以来、約1カ月半ぶりの安値をつけた。一方、6日は米中協議への懸念が和らぎ、前日比で1.0%上昇した。今週は引き続き米中貿易協議をにらみ神経質な展開となるか。進展がなければ15日に米国が中国製品に対する追加関税を発動する。米国で開催されるFOMCとFRB議長の会見にも注目が集まる。国内ではマネーサプライや物価統計が発表される予定。

▼指数チャート

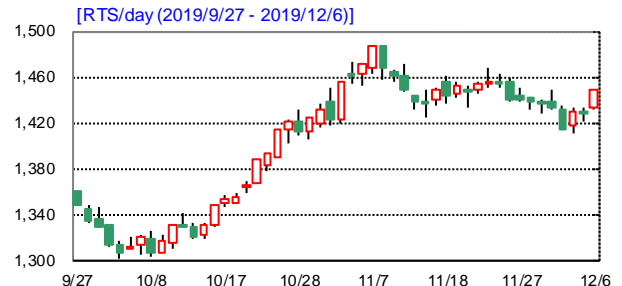


【ロシア】 RTS 指数は0.7%高と反発、今週は対中制裁第4弾の有無が焦点か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で0.7%高と反発。原油高・ルーブル高や米中通商合意期待を背景に約2週間ぶりの高値で週の取引を終えた。トランプ米大統領が南米からの鉄鋼・アルミニウムに追加関税を課す考えを示した上、米中通商合意が来年の大統領選後にずれ込む可能性を示唆した影響で週前半に大きく下落。ただ、4日はOPECの追加減産合意への期待などを背景にした原油相場の大幅な上昇、ルーブルの一段高、米中通商合意期待の再度の高まりなどで指数が大きく反発。6日まで3日続伸となり、11月25日以来の高値で引けている。個別銘柄では、MMCノリリスクニッケル、ルクオイル、ロスネフチなど資源・エネルギー株の上昇が指数を押し上げた。今週は米国の対中制裁第4弾の発動の有無や原油相場の動向が焦点か。

▼指数チャート



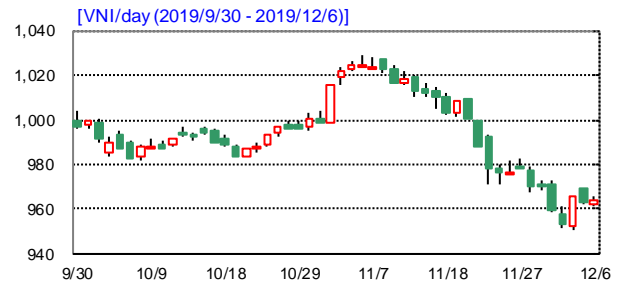
【ベトナム】 ベトナム指数は0.7%安と4週続落、今週は英総選挙やFOMCに注目

目

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で0.7%安と4週続落。タイ株の下落に連れ安となったほか、米国を中心とする貿易摩擦問題も投資家心理の悪化につながった。週明けはタイのCPI上昇率が市場予想を下回り、タイ株式相場が急落した動きが波及し、VN指数も前週末比1.2%安と大幅に反落。その後もトランプ米大統領がブラジルとアルゼンチンからの鉄鋼・アルミニウムに追加関税を課す考えを示したほか、米中通商合意が来年の大統領選の後になる可能性を示唆し、投資家心理が悪化。3日終値は953.43ポイントと7月3日以来5カ月ぶりの安値。4日は金融株が大幅高となり、指数が前日比1.3%高と反発したが、5日に反落するなど勢いは続かなかつた。今週は英総選挙、米FOMC、米国の対中制裁関税第4弾の発動の有無に注目が集まるか。

▼指数チャート

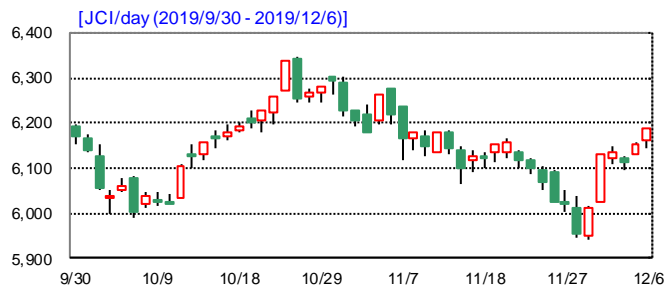


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 2.9%高、6日に1カ月ぶりの高値更新

ジャカルタ総合指数は週間で2.9%高と6週ぶりに反発。前週末に上昇した勢いを維持し、上値を迫る展開となった。週初の2日は金融株を中心に買い優勢となり、指数は終値で前営業日比2.0%高と続伸。同日に発表された11月のCPI上昇率は前年同月比3.0%とほぼ市場予想通りだった。4日はトランプ米大統領が米中貿易協定の長期化を示唆した影響で4営業日ぶりに反落したが、5日に第1段階の合意に対する楽観的な見方の広がりを受けて買い戻されると、6日は引け際の上昇が奏功し、1カ月ぶりの高値を更新して引けた。今週は10日に10月の小売売上高が発表される予定で、市場予想を上回れば好材料。

▼指数チャート

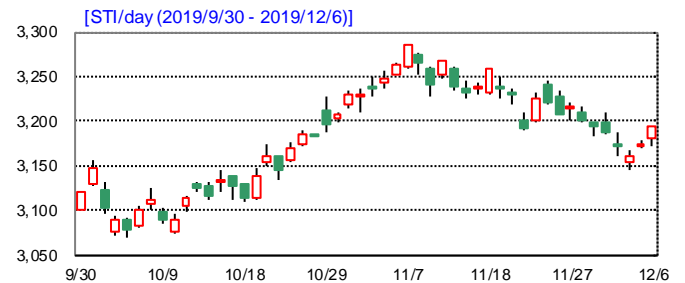


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 0.02%高、今週は10月の小売売上高に期待

ストレーツタイムズ指数は週間で0.02%高と小幅ながら4週ぶりに反発。週後半の反発が奏功した。2日は場中に一時、3200ポイントに到達したが、終値ではこの水準を割り込み3営業日続落。3日も売り優勢の展開が続くと、4日は前日の取引終了後に発表された11月の製造業PMIが49.8と前月の49.6を超えたものの、米中貿易協定の先行き不透明感が嫌気され、指数は終値で6週間ぶりの安値を更新した。ただ、5日に6営業日ぶりに反発すると、6日は米中協議進展に対する期待の高まりを受け、続伸して引けている。今週は12日に10月の小売売上高が発表される予定で、前年同月の水準を上回るかが焦点。

▼指数チャート

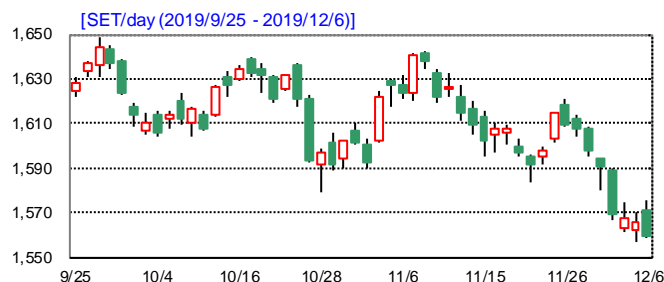


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 2.0%安、週末に約1年ぶりの安値更新

SET 指数は4日間の取引で2.0%安と4週続落。週末まで8営業日続落と軟調な値動きが続いた。週初の2日は11月のCPI上昇率が前年同月比0.2%と市場予想を下回り、経済成長に対する不安感が広がった影響で、指数は前営業日比1.3%安。3日は前日にトランプ米大統領がブラジルとアルゼンチンから輸入する鉄鋼とアルミニウムに追加関税を課す方針を示したことに加え、11月の米ISM製造業景況感指数が48.1と市場予想から下振れした影響で売られた。その後も買い材料に乏しく、祝日を挟んだ6日は終値で約1年ぶりの安値を更新して取引を終えている。今週は10日が憲法記念日のため休場となる。

▼指数チャート

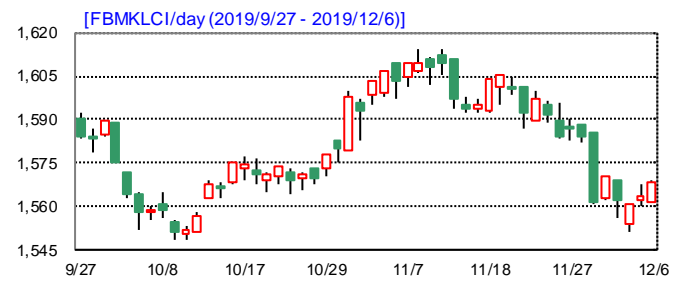


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.4%高、プランテーション株が指数上昇をけん引

クアラルンプール総合指数は週間で0.4%高と反発。小幅なレンジでもみ合った。2日は原油価格の上昇に加え、中国の11月の財新製造業PMIが51.8と市場予想から上振れたことが好感され、指数は3営業日ぶりに反発。ただ、3日に反落すると、4日は10月の輸出額が前年同月比6.7%減と3カ月連続で前年の水準を割り込み、指数も続落した。週後半はパーム油価格が上昇した効果でサイム・ダービーなどのプランテーション株が買われ、指数は続伸して引けた。今週は12日に10月の鉱工業生産と小売売上高が発表される予定。前週末のNYダウが堅調だった米雇用統計を受けて大幅に上昇したことは追い風か。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。